

令和7年度対話の広場(県西会場)
「県西地域を自分らしく楽しむ！」
～未病の戦略的エリアのさらなる可能性～
いただいたご意見等への対応状況等

【対応区分】

- A: “対話の広場”をきっかけに、新規の計画・事業を検討する(対応する方向である)
 B: “対話の広場”をきっかけに、既存の計画・事業の見直し等を行う(対応する方向である)
 C: “対話の広場”開催時点にて、既に実施している(既に対応している)
 D: 特に対応を予定していない。

関係所属名	参加者からの主な意見等	対応区分	対応状況(R8.3.23時点)
文化スポーツ観光局 (観光課)	JRのデスティネーションキャンペーンで神奈川県 のPRが4月から始まると思うが、真鶴町も、そこ に枠組みとして入れていただきたい。	C	県では、横浜市とともに協議会を設立し、神奈川・横浜デスティネーションキャンペーンを実施します。このキャンペーンでは、県内周遊を促進していくため、真鶴町も含め県内の様々な観光地をPRしていきます。
県土整備局 (交通政策課)	南足柄市だけではなく、交通インフラの拡充が大事だと思っている。自分の住んでいる南足柄市でも、路線バスの穴を埋める小型バスの実証運転が始まっているが、全部が全部近所だけで解決するわけではないので、鉄道、バスなどの公共交通を県西はより一層、重視して拡充していかないといけないと思うが、いかがか。	C	県西地域では、近年、運転手不足による路線バスの減便や廃止が相次いでいます。 そこで、県は、バス協会に対し、運転手の確保に活用できる交付金の交付や、県ホームページにバス事業者の採用情報を掲載するなど、支援してきました。 これに加えて、令和7年度に、「新規バス運転手の確保」と「既存バス運転手の有効活用」に資する2つの補助制度を創設し、運転手不足への対応を行うなど、地域公共交通の維持・確保に取り組んでいます。 また、実証実験の実績のない県西地域において自動運転バスを導入していくため、小田原市、株式会社本田技術研究所と協定を締結し、官民が一体となって自動運転の早期実用化を目指して、自動運転レベル2での実証実験を実施しています。
政策局 (いのち・未来戦略本部室)	県西地域での未病への取り組みは、健康寿命を延ばすことを目指すものだ理解しているが、この取り組みを進めるにあたり、私たち高校生が未来の担い手として主体的に貢献できる、具体的な機会はあるか。	C	県では、体と心と脳の状態を手軽に簡単に見える化する「未病指標」の活用を進めており、未病指標は、認知機能の測定もできることから、高齢者の運転免許講習や多世代交流の場を通じてご案内しております。 県内の高校生に対しては、県が作成する健康・未病学習教材の中で、未病指標の活用方法について考える設問も掲載していることから、このような機会を捉え、例えば、高齢者を含め、ご家族の体と心と脳の状態など、定期的な測定につながるよう取り組んでいます。
環境農政局 (水産課)	海での車椅子の方のイベントに参加した際、トイレのつくりについて、非常に難題があると感じた。「御幸の浜」では、トイレが車椅子でおりる方のスロープからかなり遠い所にあった。車椅子は砂浜ではマットを敷いて通らなくては行けないが、そのマットも届かないような場所だった。 ベニヤ板を敷いたりして、スロープもかなりきつくて、1人では登れないような、造りになっていた。改修や建て替えなどをご検討いただきたい。	—	「御幸の浜」エリアは県の管轄ですが、トイレの設置及び管理は小田原市の所管となりますので県では対応できません。小田原市へお問い合わせくださいますようお願いいたします。